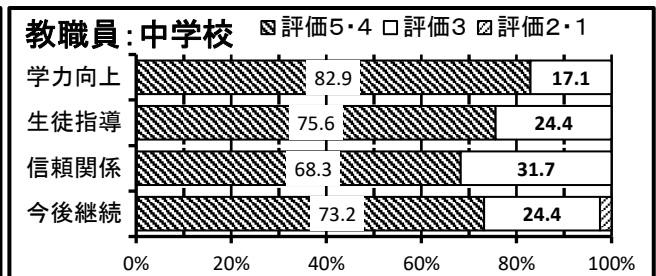
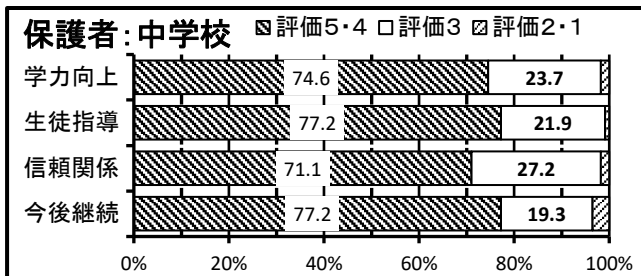
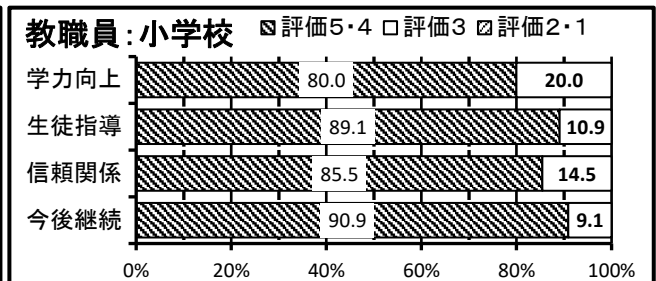
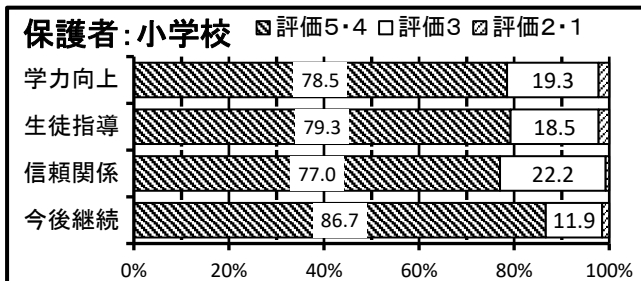
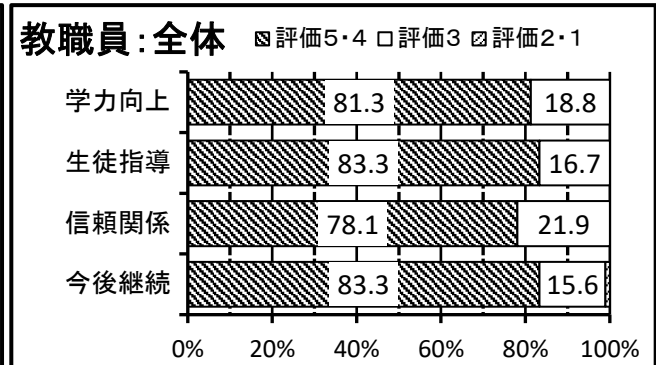
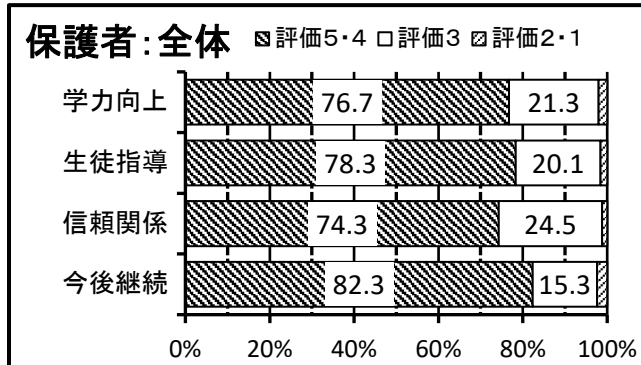


1 調査対象

- 保護者→30人学級実施学年249名 小学校3校 4学年(飯野小5・6年、加久藤小4年、真幸小5年)
中学校3校 5学年(飯野中1・3年、加久藤中2・3年、真幸中3年)
- 教職員→市内小中学校 関係教職員96名

2 アンケート結果

- 3つのねらい「学力の向上」「生徒指導の充実」「信頼関係の深まり」と「今後の継続」について評価
■ 5段階評価(5:大変効果的、又は是非継続 4:効果的、又は継続 3:わからない 2:効果が無い、又は続ける必要なし 1:逆効果、又は全く続ける必要なし)



結果の考察

- 保護者・教職員ともに「学力向上」「生徒指導」「信頼関係」の全ての項目で概ね効果的と評価している。
- 保護者よりも教職員の評価が高い。
- 保護者では、中学校よりも小学校の評価が高い。
- 教職員では、小学校では「信頼関係」と「生徒指導」、中学校では「学力向上」の評価が高い。
- 今後継続について、保護者、教職員とも8割以上が望んでいる。

3 主な意見より

- 多くの保護者が、教師の目が行き届くため子どもにとって有効であると考えている。また、教職員でも、多様な子どもたちのニーズに応えるためには必要だと感じている。保護者、教職員ともに継続を望む声は多い。
- 保護者、教職員ともに、講師不足から教育の質に対する不安の声もある。
- 小学校教職員からは、働き方改革の観点からも有効であるとの意見が見られる。中学校教員からは、授業数増加により授業の準備時間が失われるため弾力的な運用を検討する必要がある。

4 今後の課題

- 30人学級採用の講師の人材確保、及び指導力の向上
- 30人学級講師の弾力的運用
- 30人学級のPR